

新春対談



本田 恵子さん



目川 さつき 保育士



佐伯 忠良 町長



福井 香理さん



守田 連雲子さん

子どもたちの幸せな笑顔があふれ

子育てに喜びと楽しみを 実感できるまちづくり



本田 祥万 くん

核家族が進むなかで高まる親たちの育児へのとまどいや悩み。そこで、親たちが子育てに喜びと楽しみを実感できるまちづくりを進めるため、家庭、地域、行政が果たすべき役割などを話し合っていたきました。

司会 播磨町は、核家族が多いこともあり、従来から様々な子育て支援を行っています。

子育て学習センターや支援センターを拠点として整備し、有償ボランティアの子育て保育サポーター制度もはじまりますが、今日は子育てにかかわる人たちが集まっていたいただき、それぞれの立場から子育て支援を話し合っていました。

福井 私は他県から播磨町に来た核家族です。第1子を出産後、両親教育インストラクターがおられる学習センターで、同年齢の子どもを持つお母さんたちのグループ活動として、子どもの育ちに合わせたプログラムを学びました。

幼稚園の入園でセンターを卒業しましたが、そこでの共に子育てをする意識から、地域の行事に参加したりするようにになりました。

本田 2人目の子が新生児のためどこにも行けないのですが、すぐ上のお兄ちゃんが外に出たがるんです。子育て支援センターにはベビーベッドもあり、連れて行っても先生とかがみてくれ、すごく助かります。

なるような児童館がほしいですね。

町長 各小学校に児童保育所があります。子どもたちを育てるには、いろんな要素があります。児童館に子どもが向くのか、高齢の方も一緒になどの知恵がいろいろあります。

周囲のサポート

守田 子育て支援は継続が力なんです。支援センターは動脈で、学習センターは静脈で、毛細血管はみなさんそれぞれの持っている力で、地域の中に広がっていくと思います。

個々の家庭が健康になるために、周囲にいる子育てを学んだものがサポートしていく。学習センターは、親業を学んでいただく場であり、そこに行けばなんとかしてもらええる駆け込み寺でもあります。

いざお母さん方が自分で子育てをする時、初めての経験で子どもが泣いたらパニックになり、どうしていいかわからない。行政と連携して保育サポーター制度が立ち上がったので、今、困っているお母さん方がすぐに利用できるし、地域にも子育てのネットワークができます。

町長 学習センター、支援センターの良さをそれぞれの地域で出してもらおう。例えば地域の公民館などを活用できたら、すばらしい。経験をど

目川 支援センターの「おやさろん」に、ちょっと勇気をもって来ていただけると、お母さん同士も知り合いになれば、子どもも一緒に遊べます。一人で来られても、子ども同士遊びますし、他のお母さんからアドバイスをもらったり、赤ちゃんが来ればみなさんでみてくれます。

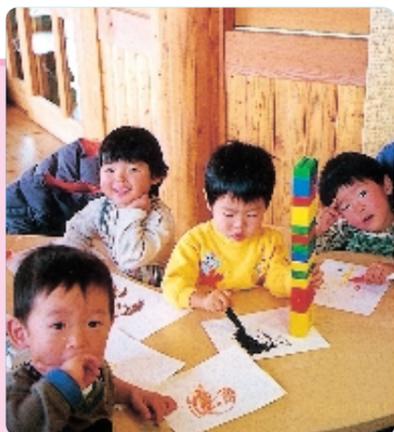
子育て支援センターや 学習センターの活用を

本田 今は子育て中なので、1日、1日のことしか考えていません。学習センターと支援センターがあつて本当に助かっています。

町長 センターは子育てに大事な施設として、より充実する方策を考えていかないといけません。

本田 支援センターは、家から歩いて3分です。本庄の方から、支援センターがちょっと遠いので、浜側にもほしいという声もあります。

町長 自治会公民館を借りたり、コミセンの一部を定期的にあけていただければ、わざわざ作る必要はないかもしれません。学校の先生方にも協力してもらい、学校と支援センタ



おやさろん大好き！

子育て支援センター

親子がいつでも遊べる「おやさろん」を開放しています。体験保育「てくてく」では遊びを通して集団生活を体験し、友だちの輪を広げます。また毎月、絵本の読み聞かせや、おもちゃパーティーなど楽しい行事もあります。温かみがある木の建物と緑あふれる「いどばたガーデン」で、気軽に遊べます。子育てについての相談もお気軽にどうぞ。

場所 野添2丁目275-3
電話 078(944)0717
開館 午前9時～午後5時
電話相談 午前10時～午後4時
休館 土・日・祝・年末年始

小学生が 利用できる場が欲しい

福井 希望として、小学生が下校してからや休日等に利用できる、学習センターや支援センターのような核になる施設があればいいと思います。

そこでは地域の大人と接したり年齢を超えた子ども同士の交流の場と

本田 学習センターの駐車場が有料になりました。1人目の時は自転車で行っていましたが、2人目ができずで行っています。

守田 学習センターは、保育園や町内の施設を利用し、地域のたぐさんのボランティアにも協力してもらっています。

町長 税金で全てがまかなえればいいが、播磨町のこれからの行政を考えると、受益者にも一部を負担していただき、大事な新たな事業に取り組まなければなりません。お金も含めて、それぞれに負担をお願いしていく。駐車台数も少ないので、できるだけ自転車で来てほしい。